

4.1 外貨投資を考えたときのポイント

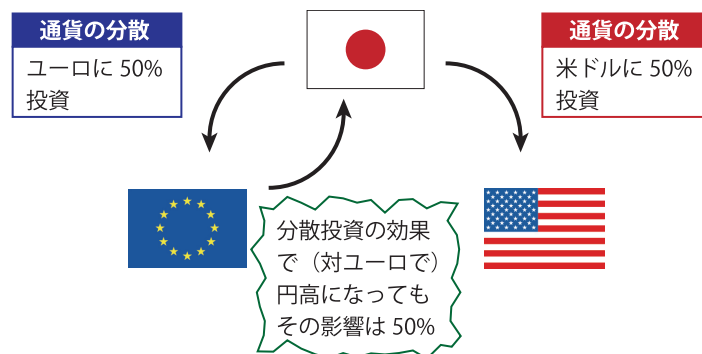
外貨投資を考えたときのポイントは“米ドル中心”

外貨投資を考えたとき、円を中心に考えると通貨の分散という言葉が過信します。通貨は米ドルを中心に動いているのです。たとえユーロに投資しても、円—ユーロの為替レートが、円—ドルの為替レートから独立して決まるわけではありません。為替は基軸通貨である米ドルを中心に考えるようにしましょう。

4.1.1 円を中心に考える

通貨の分散という言葉をときどき耳にします。円建て資産だけで保有していると円安になったときに困るから、外貨も保有したい。外貨も、ドルだけでなく、ユーロも、豪ドルもという具合にたくさんの通貨を保有しておけば分散投資効果が働く。例えば、ユーロとドルに半分ずつ投資するポートフォリオを組んでいたとすると、円高になってもポートフォリオに与える影響は半分で済む。

図 4.1 円を中心にした考え方



4.1.2 米ドルを中心に考える

しかし、実際の為替の世界は、図 4.2 に示すように米ドルを中心としたものです。この考え方の下では、仮に円とドルの為替が円高になると、それと同程度以上に米ドルとユーロの為替レートがユーロ高にならない限り、円とユーロの関係も円高になります。

ドルを中心に考えるのであれば、円ドル為替の変動は、円とほかの通貨のすべての為替レートに影響を及ぼすことになるのです。言葉を代えるのであれば、『ドル建資産に投資している割合が 50% であるから、円ドル為替の変動から受ける影響が 50% である』とする考え方は、通貨の分散という言葉で過大評価した結果になっているのです。

分散投資という考え方そのものが間違っているわけではありません。しかし、為替や株式といった資産クラスは、グローバル化の進展に伴い、より相互依存性が増しています。この相互依存性を低く見誤ると、予想している以上のリスクをとっている事態に陥ってしまうのです。

図 4.2 米ドルを中心にした考え方

